



発行所
天理教祝梅分教会
千歳市祝梅 598
☎0123-29-2055
復刊第五十八号

春季大祭 講話 抜粋

立教百八十九年の新春を迎え、親神様の御守護のもと、皆様と共に新たな年を出発できますことを、心よりありがたく存じます。

昨年は、それぞれの立場において日々のつとめとにいがけにお励みくださり、誠にありがとうございました。

本年も教祖のひながたを心の支えとして、互いにたすけ合い、陽気ぐらし世界の実現に向かって、一歩一歩着実に歩ませていただきたいと思います。

立教百八十九年が、皆様お一人おひとりにとって、心新たに信仰を深める一年となりますよう、共に勇んで通らせていただきますように。

真柱様は、この三年間で

「教祖は、五十年の間、どんなことが起こっても諦めることなく、丹精し続けられたということを、これもひながたとして忘れてはならないことではないかと思うのでございます。」

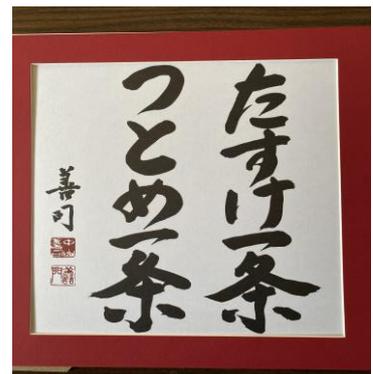
「一人でも多くの人を、この道に引き寄せさせていただく努力とともに、道具衆の自覚を持って、教えを実行するようになるまで辛抱強く心を掛けていくこと、また、すでによぶよぶになってはいるが、いま一旦休憩している人も、やはり一人でも多く、よぶよぶの自覚を持って動いてくれるように働きかけを続ける。」
「年祭の当日、おちばへ帰ってきてもじなぐても、その日をうれしい心で迎えることができるよう」

と私たちにお言葉をくださいました。

この度は、教会より一月二十六日、教祖百四十年祭の当日にお読みいただくメッセージを配布しますの、布教所、信者宅でお読み頂き、おつとめをしてくださいさればと思います。

また、教会では祭文を奏上し、おつとめをつとめます。

教会に年祭の記念として真柱様さまより色紙を頂戴いたしました。



1月26日、教祖百四十年祭を迎えさせていただきました。述べ12万人の参拝であったそうです。皆様には、年祭活動を真剣にお通りくださいましてありがとうございました。私たちの真実を親神様、教祖はお受け取りくださり、お喜びくださっていると信じます。これからも、お互いがたすけあい、補い合いながら陽気ぐらしに向かって共に歩ませていただきたいと思います。



今月から、おぢば帰りされた方のインタビューを掲載させていただきたいと思います。

今月、おぢばにお帰りになった梅伊達分教会会長の河本重信さん善子さんと夫妻と、八十梅分教会会長の佐々木一応さんにお話を伺いたいと思います。

○教祖百四十年祭ご参拝お疲れ様でございました。

梅伊達の善子さんから、おぢば帰りが近づくと、突然「会長の体調が悪く、おぢばに帰れないかもしれない」と、お電話をいただいた時はどうなる事かと心配しましたが、無事、お帰りになることが出来て良かったですね。

善子ーありがとうございます。あの時は会長が全く歩けなくなりました。「キャンセルしようかなあ…」とも思いました。でも「どんな事をしても、おぢばに帰らせていただくんだ」と心が定まるので、不思議と歩ける様になったんです。

数年前から会長の体調が悪くな

っていたので、一月のおぢば帰りは無理と諦めていました。でも、祝梅の会長さんから一月のおぢば帰りの話があって、教祖百四十年祭が執行される一月二十六日に帰らせていただくとうと夫婦で心を定めました。その後も歩けなくなり一時はどうなる事かと思いましたが、こうして無事参拝させていただく事が出来て本当にありがたいです。



○以前よりも足の運びが驚くほど良くなりましたよ。誠真実を親神様がお受け取りくださったのですね。

八十梅の会長さんはおぢば帰りの時には、いつも、透析を受けていらっしゃるんですが、百四十年祭の二十六日が透析の日だったので、お医者様に「透析の口を伸ばしたい」とお願いされたそうです。その時「どうして口を伸ばすと云うのなら血の責任

で…」と、お医者様に念をおされたとか…まさに命懸けの百四十年祭のご参拝でしたね。

八十梅ー二十六日はとにかく寒かったので、余計に身体にこたえたね。人が多勢で神殿には入れなくて、トイシの前の板の間で参拝していただけど、おつとめの後、真柱様のお言葉も終わって、帰ろうと立ち上がった時、何としてもふらついて歩く事が出来なくなりました。その時、一緒に参拝していた善子さんが腕を掴んで支えてくれた。でも、もっ片方の手では梅伊達の会長を支えている。二人の病人を見なきゃならないんだから、善子さんも大変だったと思うよ。本当に大したものだ。助けられたよ。

そんな状態だったけど、参拝させていただく事が出来て「あゝ良かったな」の一言に尽きます。本当ありがたいです。

○そして今回は二十四日から二十九日まで長い日程でのおぢば帰りでしたね。

善子ー二十五日には御本部のお願いつとめに参拝させて頂き、回廊のひのきしんをさせて頂きいただきました。その時、大教会長様のお口添えで本部員先生が会長におさづけを取り次いで下さいました。

二十七日に御本部でお話を聞かせて貰おうと二人で行かせてもらったら、お話をしてくださる先生が偶然にも、おさづけを取り次いでくださった先生でした。お話が終わってから先生におさづけのお礼を申し上げ「御本部から詰所まで歩いて帰ることができました」と、お伝えすると「ニキ口もよう歩いたなあ」と喜んでくださいました。

先生はその時のお話で、明治二十年正月二十六日の「おつとめ」がつとめられた時のお話を聞かせて下さいました。「おつとめ」は教祖が世界一列をたすけたいという親心から、せき込まれた、大切な「おつとめ」である事をあらためて感じました。

○この度の年祭での教会への記念品は真柱様が書かれた『たすけ一条つとめ一条』の色紙でした。「おつと

め」の大切さをお話くださったので
すね。

「たすけ一条」といえば、八十梅の
会長さんは、日頃からいつでも、ど
こでも、おたすけされてますよね。
二十五日にも京都まで、おたすけに
行かれたそうですね。

八十梅ーおぢばに帰らせていた
いた時には、京都にいる同級生のお
たすけに行かせて貰っているよだ
よね。そいつには、何とかしておぢ
ばに帰って貰って御守護いただい
て貰いたいと思ってるので、これ
からも、足を運ばせてもらいたい
と思っています。

二十七日には教祖殿で梅伊達の
会長におさづけを取り次がせて貰
う事が出来て良かったよ。

そして、その後、やっと話所の近
くの病院で透析を受ける事ができ
たんだよね。祝梅の会長が送迎して
くれて、助かったよ。

○本当なら、透析を受けるまで動け
るような状態ではなかったと思うの
ですが、「自分の身体が辛い中でも、
おたすけの心を忘れない真実に、神

様が連れて通ってくださったので
ね。

二十八日には会長さん方ご招宴に
行かれましたね。

八十梅ーご招宴には真柱様がお出
ましになったんだよね。本当に真柱
様のお元気になられた姿を見て「い
ゃー良かったなあ」と思ったよ。
こんな身体だから大変なんだけど、
また、必ずおぢばに帰らせて貰いま
す！

梅伊達ー最後の「ご招宴だと思っ
たので、感無量でした。

○そして、善子さんはお二人のお世
話、本当にお疲れ様でした。

善子ー今回は会長もこんな状況な
ので、二人仲良くお手繋いでお
ぢば帰りました(笑)でも、ご招宴
に私は付き添えなかったの、周り
の先生方のお世話取りのおかげで
会長もご招宴に行かせていただく
事が出来ました。その他にも、一階
の部屋にベッドを用意してくださ
ったり、車で送迎してくださったり、

本当にいろんな場面でたくさん
の方々にたすけていただきました。

教祖百四十年祭、いろいろありま
したが、帰らせていただいて、本当
に良かったです。このおぢば帰りを
通して、より身近に神様を感じる様
になりました。

おぢばは最高！教祖ありがとうございます
ございました。

○お話を聞かせていただき、ありが
とうございました。

梅かなめ布教所長、高橋和志、紀久
子夫妻と娘の志津香さんと愛犬
と共に名古屋から渋滞の中、何時間
もかけ、おぢばに帰りご参拜くだ
さいました。

百四十年祭を前にして、義父が年
末二十三日に亡くなり、正月に義母
が足の骨折で入院。それ以前にも大
教会長様の出直しや祝梅の教会の
信者さんの中でも出直す方が相次
ぎ、自分自身の通り方がこれで良
いのか、親神様が伝えたい事は何な
かを思索する中でしたが、論達にも

あるように「節から芽が出る」よう
心を倒さず通らせていただきたい
と思っております。

そんな中、我が家では家族同様の
コーギー犬のビックキーに、昨年二月
にリンパ腫が見つかり、このままで
は余命一カ月と言われました。

この年、私自身も癌の疑いで精密
検査を受けるような事があり、何か
ビックキーが身代わりになってくれ
たように感じられました。

その後、神様にお願いとするととも
に家族の信仰を見直し、百四十年祭
までは命をつないでいただきた
と思っております。

運が良く抗がん剤が効きやすい
リンパ腫であつたらしく、治療の結
果、今は元気に過ごしており、毎月
家族と共におぢばに帰らせていた
だいております。



『信心』

○雨傘信心という言葉がある。
にわか雨に降り込められたとき
傘を借りたいような気持ちで神仏に
近づくことを言うのである。

○浅はかな人間は、晴天になると
今まで大事にしていた傘を忘れるように、
神の加護を受けると、いつしか
神仏を忘れ去っていく。
にわか信心は神仏の迷惑である。

○太陽に向かつて立てば影は後にでる。
太陽に背を向けば前に影が現れる。
太陽が頭の上にくれば影は消える。
神の教えを真つ直ぐに行えば「いんねん」の
影は消える



第44回若人会総会のご案内

立教189年(令和8年)3月21日(土) 霊祭の後、つとめます。
霊祭は、9時30分よりつとめます。
祭儀式のみで、その後、総会となります。

夕張団総会のご案内

翌日の3月22日(日)は夕張団総会が大教会で開催されます。
こちらも詳細は後日ご連絡いたします。
役割は、9~12下り目 祝梅、長沼、北夕、幌都、夕喜元 です。



あとがき
百四十年祭、日本中が寒波で天候が悪い中、無事おちばに帰らせていただくことが出来ました。
梅伊達の会長さんや、八十梅の会長さんのように、厳しい状況の中を、やつとの思いで帰られた方、他にもいらつしゃいました。それに遠い海外からもたくさんの方々が帰っていました。教祖が現身を隠された一月二十六日の午後二時のサイレン…いつも、当時の先生方の事を思うと胸がつかされ涙が込み上げて来ます。でも、今年はサイレンが鳴り終わる頃「扉ひらいて」の言葉が心に浮かび「教祖はご存命で世界中、どこへでもお出ましくくださるのだ」と、実感しました。
教祖は遠い海外の国でも、お働きくださっています。そして、もちろん、私達、一人ひとりをも見守ってくださっているのです。ありがとうございます。
二月五日、立石航大くんがおさつげの理を拝戴されました。 多江子